

現代人は、「心の栄養失調」と言われている。体の栄養は食物である。では、心の栄養とは何か。それは「言葉」ではなかろうか。人の心には雑草が生えやすいという。日々、我々は様々なマイナスの感情や言葉、出来事に出合う。だが、言葉に触れていると、希望をもってこの世の荒波を乗り越えていけると感じることもある。それは、どんな言葉か。人に勇気を与える言葉、人を幸せにする言葉、人に考えるきっかけをもたらす言葉などだろうか。

この園長通信の読者から、言葉の力を感じるメッセージをいただくことがある。最近も、本来は読書嫌いなのだが、園長通信だけは毎日読んでいるという方からメッセージをいただいた。

なぜ、読書嫌いでも読めるのか？

余計な修飾語がない。読者に詳しく伝えようとする、どうしても修飾語を多用してしまう。修飾語は筆者の感性を読者に押しつけてしまうことにもなる。そして、読者のイメージを制限してしまう。

高澤先生の作品は、事実を短い文章で淡々と書き綴っている。テンポがよいので、文を追うごとに、どんどん引き込まれて、イメージと期待感が広がっていく。また、筆者の客観的な見方で書かれている。余計な脚色がないから、読者は主観的にその文章と向き合える。様々な記憶が甦り、自然と自分の人生を辿りながら読むことができる。そして、自分事に変換されていく。

だから、読後感が心地よい！

私には、とてもとてもこのような文章は書けない。自分が意識していないこと、意識できていないことを、こういうことかと意識化させてもらえる。心強くありがたいメッセージである。よき理解者であり、読者である。

イチロー氏が、こんなことを言っている。

僕の中から出てくる言葉を選んでいました。じゃないと伝わらないから。人から聞きたい言葉とかいい話とかって、いいんだけど、それってこうやって公の場で僕の言葉じゃない言葉で話したとしても、聞いている人は分かっちゃうんですよね、不思議なことに。僕の中から湧いてくる言葉、それを表現しました。

言葉はむずかしい。どの言葉を選び使うか。きっと、日常の中で、どういう言葉に触れているか、どういう言葉を口ずさんでいるか、一日一日の微差が積み重なって大きな絶対差となるのだろう。栄養失調はよくない。少なくとも自分のまわりからは、心の栄養失調を出したくはない。そのためにも、言葉をもとに文章を綴っていきたい。